

# 子どもの成長発達に大切なこと

子どもは一人ひとりに個性があります。発達の方も一人ひとり異なります。

発達がゆっくりでも、そうでなくても育児で大切なことは同じです。  
親も子も ①元気にすごしている  
②ところがすこやか  
③安定・安心が守られている

認められること  
↓  
自信・安心感・達成感が持てる  
↓  
新たな意欲につながる

子どもの成長につれ、育児や発達についての心配も変化します。一人でかかえこまず、いつでもご相談ください。



身近な大人が認めてくれているという実感は、子どもの情緒（心）の安定となり、いろいろなことにチャレンジしようとする気持ちにつながります。

「ほめる」という方法で、子ども自身を認めることができます。



「ほめる」（＝肯定的な注目を与える）と子どもはその行動をもっとしようとし、他のことでも協力したり、スムーズに行動できるようになります。

## 「ほめる」をしてみよう

### 「ほめる」行動の見つけ方

#### ● ささいなことから見つけよう

（普段できていないことができた特別な時ではなく、ほかの子どもよりもうまくできている時ではなく、当たり前でも、これからも続けてくれたらいいなと思うことから見つけましょう。結果だけではなく、頑張りの過程を認めます。性格ではなく、子どものとる行動に注目するとたくさんほめる機会があることに気づきます。）

例 ・お片づけをすぐにはじめた ・「いただきます」と言ってごはんを食べはじめた ・こぼしたものを拭こうとしている

### 効果的に「ほめる」ポイント

- **すぐにほめましょう**（よい行動を始めたら、タイミングを逃さずその場で、その最中に、できるだけ早く。）
- **近づいて視線を合わせてほめましょう**（名前を呼んで、そばに寄って、子どもの目の高さで、ほほえんで。）
- **思いっきりほめましょう**（「ほんとうにすごいよ」の気持ちで。頭をなでたり、抱きしめると効果倍増。）
- **できている行動から早めにほめましょう**（よい行動をし始めたときに1回、終えたときにもう1回ほめます。）
- **具体的に何が良かったのか伝えてあげましょう**（よかった行動を言葉で伝えてあげます。

「〇〇できたね」「〇〇がんばったね」「〇〇してくれてありがとう」「助かったわ」「うれしいわ」

「ほめる」だけではちょっとうまくいかないこと、伝え方や大人の行動に工夫が必要なこともあります。いつでもご相談ください。また、子ども発達支援センターでは様々な研修会の開催や出前講座をしていますので、お問い合わせください。

参考) 困っている子をほめ育てるペアレント・トレーニングガイドブック、テキストブック 奈良教育大学特別支援教育研究センター岩坂英巳

発達に心配のある子どもたちには、周りの人の気づきと正しい理解、その子にあった適切な支援が必要です。また、発達特性によって子育てが難しくなることがあり、保護者の困りや不安が大きくなることもしばしばみられます。

大切なことは「何が苦手なのか」ではなく「どのような工夫や支援をすればできるようになるのか」また、今、どんなことができてどんなすてきな面を持っているのかといった「その子自身」の幅広い全体像に目を向けていくことです。

一人ひとりにあった支援をすることで、子どもも、家族も、より安心して生活していくことが可能になります。

いつでもご相談ください

